

報道関係者各位

2020年7月15日

国立成育医療研究センター

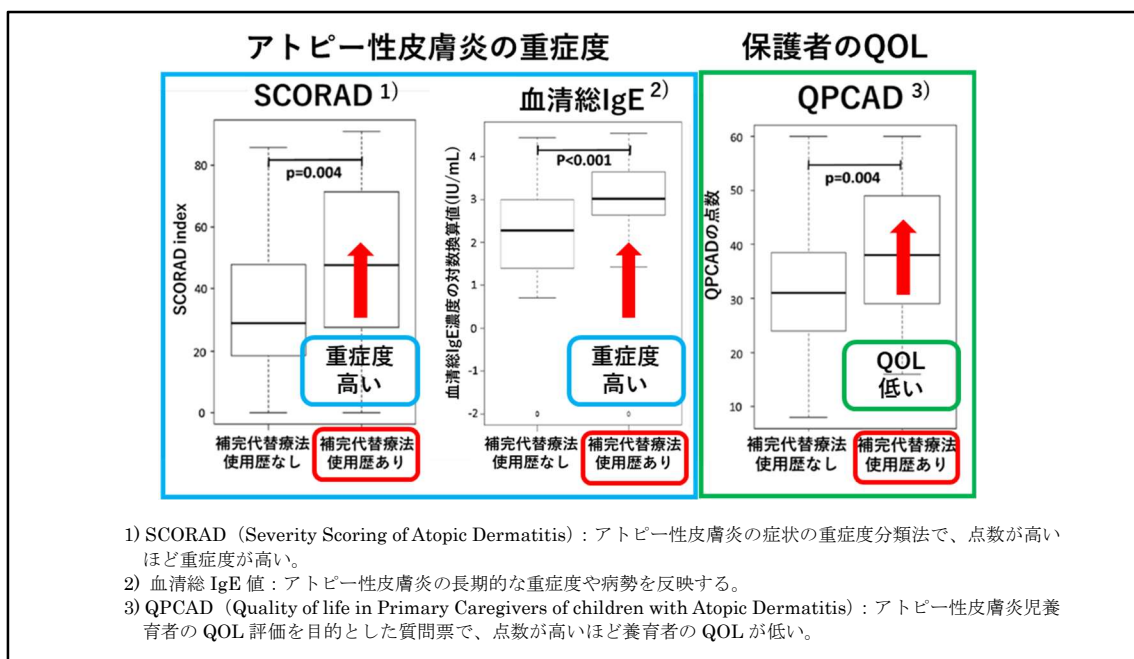
**アトピー性皮膚炎で補完代替療法（民間療法など）の使用歴のある  
 お子さんは重症度が高い  
 ～標準治療について、患者や家族の不安払拭や理解が重要～**

国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区大蔵 2-10-1、理事長：五十嵐隆）のアレルギーセンター大矢幸弘センター長、山本貴和子、佐藤未織のグループは、アトピー性皮膚炎において補完代替療法（民間療法など）の使用歴の有無が、その後の重症度や QOL（Quality of Life、生活の質）にどのような関連があるのかを調査しました。

調査は、2015年4月から2016年3月に当センターを初めて受診したアトピー性皮膚炎患者を対象に、電子カルテのデータを後方視的に解析しました。その結果、アトピー性皮膚炎に対する補完代替療法の使用歴のある患者グループは、使用歴のない患者グループと比較して、有意に当センター初診時のアトピー性皮膚炎の重症度が高く、保護者の QOL が低いことがわかりました。また、この2つのグループでは、当センターを初めて受診するまでの標準治療（ステロイド外用薬）の使用歴に違いはありませんでした。しかし、補完代替療法の使用歴のある患者グループでは、標準治療（ステロイド外用薬）を自ら中断してしまう患者が多いことがわかりました。

アトピー性皮膚炎の病態や標準治療について、医療従事者が正確で十分な情報を患者・家族へ分かりやすく伝えること、また患者・家族の標準治療に対する不安や補完代替療法の使用について医療従事者が把握するよう努めることが必要です。

この論文は、Japanese Society for Investigative Dermatology が発行している Journal of Dermatological Science に掲載されました。



## 【プレスリリースのポイント】

- ・当センターを初めて受診する時までに、アトピー性皮膚炎に対する補完代替療法の使用歴があると、アトピー性皮膚炎の重症度が高い傾向にあり、保護者の QOL は低い傾向にありました。また、補完代替療法の使用歴のある患者グループでは、標準治療（ステロイド外用薬）を自ら中断する患者が多くいました。
- ・医療者が科学的根拠に基づいた正しい情報や標準治療を、患者・家族へ分かりやすく伝えること、また、患者・家族の標準治療に対する不安を払拭させ、補完代替療法の使用について把握し共感を示すことが必要です。
- ・本研究は後方視的な横断研究のため、補完代替療法の使用により重症度に影響がでたのか、重症度が高いから補完代替療法を使用したのか明らかではありません。アトピー性皮膚炎の重症度や QOL との関連は明らかになりましたが、因果関係を結論づけることはできません。

## 【背景・目的】

- ・補完代替療法とは、一般的に従来の通常医療と見なされていない、さまざまな医学・ヘルスケアシステム、施術、生成物質などの総称です。（米国国立補完統合衛生センターによる定義）
- ・アトピー性皮膚炎のガイドラインでは、補完代替療法は標準治療として推奨されていません。しかし、アトピー性皮膚炎の患者さんは、標準治療（特にステロイド外用薬）やアトピー性皮膚炎の症状悪化の繰り返しに不安を持ち、補完代替療法を使用することがあります。
- ・そこで、アトピー性皮膚炎の小児患者さんの補完代替療法の使用歴と、アトピー性皮膚炎に関する重症度や QOL などとの関連を明らかにするために、今回の研究を行いました。

## 【研究手法】

2015年4月1日から2016年3月31日の1年間に、当センターのアレルギーセンターを初めて受診したアトピー性皮膚炎の子ども187名（0～19歳）が対象です。アレルギーセンター初診時までの補完代替療法の使用歴や、臨床情報について電子カルテデータを用いて後方視的に調査しました。初診時のアトピー性皮膚炎の重症度や保護者の QOL、また初診時までの標準治療の自己中断歴について、補完代替療法の使用歴のない患者グループ（152名）と使用歴のある患者グループ（35名）で比較検討しました。

**【研究結果・発表者のコメント】**

- ・ 今回の研究で、小児アトピー性皮膚炎に対する初診までに補完代替療法の使用歴がある患者グループは、ないグループと比較して、より初診時のアトピー性皮膚炎の重症度が高く、保護者の QOL が低いことがわかりました。
- ・ 補完代替療法の使用歴のある患者グループでは、ないグループと比較して、標準治療（ステロイド外用薬）を自ら中断する割合が高く、患者や家族が標準治療（ステロイド外用薬）や症状悪化の繰り返しに不安を持っていた可能性があります。
- ・ ステロイド外用剤はアトピー性皮膚炎の標準治療とされていますが、ステロイドフォビア（ステロイド外用剤使用に対する不合理な恐怖や不安）はどの患者にも起こりうる身近な問題であり、強いフォビアになると患者教育には相当な時間が必要となります。これらの思想に至る経緯は適切な医療を受けられなかった経験が根底にあることがほとんどであり、フォビアを元から作り出さないためにはステロイド外用薬を処方する医師の適切な指導が必須であります。
- ・ 医療者が科学的根拠に基づいた正しい情報や標準治療をしっかりと患者・家族へ分かりやすく伝えること、また患者・家族の標準治療に対する不安払拭や、補完代替療法の使用について医療者が把握し共感を示すことが必要です。
- ・ 本研究は後方視的な横断研究のため、補完代替療法の使用により重症度に影響がでたのか、重症度高いから補完代替療法を使用したのか明らかではありません。アトピー性皮膚炎の重症度や QOL との関連は明らかになりましたが、因果関係を結論づけることはできません。

**【発表論文情報】**

- ・ 著者：佐藤未織<sup>1,2)</sup>、山本貴和子<sup>1)</sup>、羊利敏<sup>1)</sup>、苛原誠<sup>1)</sup>、石川史<sup>1)</sup>、岩間元子<sup>1)</sup>、宮田真貴子<sup>1)</sup>、齋藤麻耶子<sup>1,2)</sup>、宮地裕美子<sup>1)</sup>、稲垣真一郎<sup>1)</sup>、福家辰樹<sup>1)</sup>、野村伊知郎<sup>1)</sup>、成田雅美<sup>1)</sup>、鈴木孝太<sup>2)</sup>、大矢幸弘<sup>1)</sup>
- ・ 所属：国立成育医療研究センター アレルギーセンター<sup>1)</sup>  
愛知医科大学医学部衛生学講座<sup>2)</sup>
- ・ 題名：Complementary and alternative medicine and atopic dermatitis in Children
- ・ 掲載誌：J Dermatol Sci. 2020 Jan;97(1):80-82.

**【問い合わせ先】**

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター  
企画戦略局 広報企画室 近藤・村上

電話：03-3416-0181（代表）E-mail:koho@ncchd.go.jp